

ソフトボールを未来につなげるために

長野県ソフトボール協会 指導者委員会

1. 普及と強化に関わる指導者の役割

今、どの競技団体も、『普及と強化』に力を注いでいます。私たちソフトボール協会も、スポーツの入口にいる子どもたちには、ソフトボールの楽しさを体験させることにより、ソフトボールのすそ野を広げ、その上に競技のレベルアップを図る取り組みをしています。この『普及と強化』は常に一体であり、普及を阻害しての強化は長い目で見ると衰退となります。そして、これを実現させるのは、直接的には現場の指導者であることから、『指導者養成』は非常に重要なこととなります。(図1)

長野県ソフトボール協会では、毎年公認指導者資格取得のための講座を開講しています。特に力を入れている部分は、発育発達に応じた指導と、コミュニケーションを重視した指導についてです。昨年度も33名の方が受講して、見事全員がライセンスを取得しました。今年も同様に開催しますので、皆さんの受講をお待ちしています。

また、公認指導者資格をベースに、さらに指導の質を高め、レベルアップを図るために、公認コーチ資格取得者の増大を進めています。長野県には現在12名がコーチ資格を取得しています。受講を希望の方は、長野県ソフトボール協会事務局又は指導者委員会に問合せください。

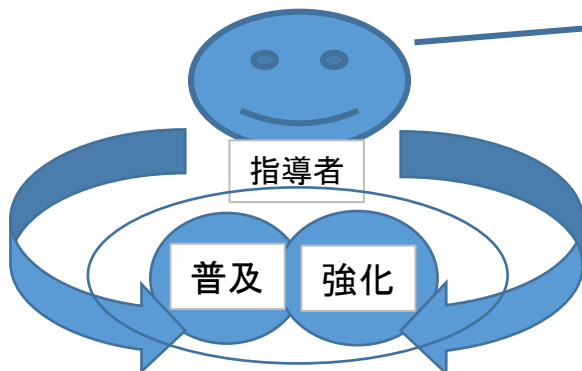


図1: 普及・強化指導者育成のイメージ



写真2: 指導者の五者(知的コーチングのすすめより)

2. フェアプレイと暴力・暴言の根絶に向けた取り組み

【まず、日本ソフトボール協会作成のリーフレットをしっかりと読んでください】

今、スポーツを取り巻く考え方が変わってきているのを皆さんは感じていますか？ スポーツで勝利する選手は、自ら考えて行動する、主体性を持った選手です。確かに以前は、監督の罵声に恐怖を感じ懸命に動く選手が結果を残す光景もありました。しかし、そういった指導の下で育った選手は、大人になっても罵声が無ければ動けず、自ら考え動くことが苦手な選手になってしまうようです。

ちょうど平昌オリンピックが行われています。もし、小平奈緒選手や高木美帆選手、高梨沙羅選手がそんな暴力・暴言による指導を受けていたとしたら、ここまでの選手にはなっていなかったと思います。感動を与えてくれた素晴らしい選手ですが、指導者もコーチとしての自分を磨き、進むべき方向を見失わずに、選手と共に学び歩んできたものだと思います。

今年に入り、1月10日の信濃毎日新聞の記事に大きな衝撃を受けました。カヌーの選手が、ライバルのドリンクに禁止薬物を混入させて、ドーピング違反に陥れようとしたという記事です。相手があるからスポーツは成り立ちます。暴力・暴言が取り出されていますが、目には見えにくい相手への誹謗・中傷も実は同じくらいに卑劣な行為です。大人カテゴリーが見本となり、子どもたちにも、相手を尊重しフェアプレイ精神で試合ができる態度の育成をお願いしたいと思います。

最後に「知的コーチングのすすめ」(大修館書店・勝田隆著)という本から、コーチに必要な5つの顔」というものを紹介します。「指導者は5つの側面を持っていることが必要であり、その5つとは、①教育者、②医者、③学者、④役者、⑤易者である。」と述べています。(写真2)

どのように解釈するか皆さんも考えてみてください。指導者にこういった側面が備われば、暴力・暴言に頼った指導をする必要はなくなります。ソフトボールの場での暴力・暴言は、多くのソフトボール離れを生み、やがて社会からソフトボールが必要とされなくなってしまう。ソフトボールを未来の子どもたちに残してあげることは、私たち指導者の責任です。



